

県立総合医療センター機能強化の検討について

令和 4 年 11 月

1 第 1 回検討委員会 (5/31) 概要

○現状と課題

高齢化の進展による医療ニーズの増大や、新興感染症への備えが求められる中、県民の命と健康を守るためには、医療提供体制のさらなる充実に向けた機能強化が必要

病院本館は建設後約 40 年が経過して老朽化や狭隘化が著しく進行しており、センターが本県の高度専門医療や感染症医療等の拠点としての役割を強化していくためには、施設の大規模な再整備が必要

○検討の視点 (ポイント)

県民から求められる医療機能等

(1) 大きな方向性

今後の医療需要を見据えた、本県の医療提供体制を万全なものとするための、県立病院としての抜本的な機能強化

(2) 求められる役割等

① 高度急性期・急性期医療への対応

県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、他の医療機関では対応困難な患者の受け入れや、救急・周産期、がん医療等高度専門医療、へき地医療等の拠点として、県全体の医療を支える中核的な高度急性期・急性期の基幹病院としての次期医療計画を見据えた機能強化

② 5 疾病・6 事業等への対応 等

○主な意見 (5/31)

① 救急、周産期、感染症など県内全体をカバーする高度急性期・急性期の基幹病院として、人や医療設備の充実が重要であり、大学も連携して取り組みたい。

② 県内唯一の第 1 種感染症指定医療機関として、コロナ対応では、他の医療機関では対応が難しい妊婦・小児・重症患者を多く受け入れてもらい感謝している。今後起こり得る新興感染症においても人材供給や育成を含め、けん引役をお願いしたい。

③ こころの医療センターと連携し、身体合併症を有する精神疾患患者の受入機能を強化してしていただきたい。

2 第2回検討委員会（10/25）概要（具体的な医療機能等）

① 総合医療センターの医療需要等

- ・入院患者数及び外来患者数は、2025年にピークを迎えるが、2040年は2020年と同程度の患者数（入院約97%、外来約96%）が見込まれる。
- ・救急入院患者数は、2035年にピークを迎えるが、2040年は2020年の約108%の患者数が見込まれる。

② 機能強化の方向性等について

- ・医療ニーズが多様化・高度化する中、より高いレベルの安心を将来に向けて確保し、本県の医療提供体制を万全のものとするため、全面的な建替えを基本に施設を再整備し、抜本的に機能強化
- ・将来にわたり本県医療の中核的役割を果たしていくため、救急・周産期、がん医療等高度専門医療の拠点として、最先端医療の導入等による質の高い医療の提供
- ・本県唯一の第一種感染症指定医療機関として、新興感染症等に対応可能な施設整備及び専門人材等の確保・育成

（参考：新型コロナへの対応状況）

県内唯一の第一種感染症指定医療機関として他の医療機関では受け入れが困難な重症患者や妊婦等を受け入れるなど、県全体の感染症医療を牽引。

また、一般病床（回復期）を改修し、専用病棟としてコロナ重症患者等を受け入れており、実質的に急性期病棟として、相当数の人的・物的資源を投入。

県のスタンス

1 医療機能等について

① 一般病床（高度急性期・急性期機能の強化）

- ・将来の医療需要や果たすべき役割を踏まえ、本県における基幹病院として、現状と同程度の一般病床数が必要。
- ・また、高度急性期・急性期医療の機能を強化するため、回復期病床については、急性期病床へ転換し、必要な医療を提供。

② 感染症病床（国の感染症対策に係る動向等を踏まえた機能強化）

- ・感染症対策に係る国の検討状況等を踏まえ、引き続き、必要な病床数等について今後検討
- ・新興感染症等の感染拡大時における一般病床の活用等についても併せて検討

③ 精神病床（身体合併症を有する精神科患者の受入強化）

- ・身体合併症を有する精神科患者の受入強化のため、精神病床等について、今後検討

2 今後の検討課題

(1) 国の医療政策の動向等を踏まえた医療機能の強化

- ・第8次医療計画等に関する検討会、各WG
- ・新興感染症等（感染症対策（予防計画）に関する検討の場等）
 - 平時において、都道府県知事と医療機関が協定を締結
 - フェーズごとの必要な病床数を確保
 - 地域において、医療機関の役割分担を明確化
 - ⇒感染症発生・まん延時に確実に稼働する実効的な準備態勢を構築

これらの国の動向等を踏まえ、病床機能等についてさらなる検討を行う

(2) その他の機能強化

- ・患者サービスの向上への取組
- ・持続可能な病院経営体制の構築等に向けた取組 等

(3) 医療機能の実現に必要な病院整備方針

- ① 病床規模等
一般病床数、精神病床数、感染症病床数
- ② 整備形態、整備場所
- ③ 整備スケジュール
基本計画、基本設計、実施設計、建築工事

○主な意見（10/25）

- ① 高度急性期・急性期医療の機能強化が必要であり、そのために必要となる病床を十分に確保することが必要。大学も連携して取り組みたい。
- ② 高度医療機器や最先端医療技術の導入は若手医師確保の面でも重要。
- ③ 感染症やへき地医療においては特に、牽引役としての機能強化を図るとともに、地域における人材育成機能の強化に期待している。
- ④ 身体合併症に係る入院需要が高まっているため、身体合併症を有する精神科患者の受入強化にしっかり取り組んでいただきたい。

【参考】総合医療センター2025 プラン抜粋

内訳	変更前（床）	変更後（床）
高度急性期	275	275
急性期	156	215
回復期	59 ※	—
慢性期	—	—
計	490	490

※ 準備ができ次第、急性期病床へ転換